

三者懇親会を開く

第一回としては合格点？

去る六月二十二日（木）午後六時より千里阪急ホテル葵の間にて「大学当局並びに学友会との懇親会」が開催されました。

参加者は大学当局からは大蔵学長はじめ七名、学友会からは中谷学友会委員長をはじめ十一名の参加となりました。

まず、関会長より開会のあいさつがあり来会の御礼並びに会の趣旨説明のあと、各校友会理事が自己紹介を行いました。

その後、大蔵学長、中谷学友会委員長のあいさつが行われ、そのあと各参加者より自己紹介があり、和やかに歓談をはじめました。

在学生の代表である学友会役員、校友会理事、そして教職員の代表とが集う初めての懇親会ということで、それぞれ最初は緊張の面持でしたが、同じ大学にかつて籍をおいた者、今、在学している者、これらの大学を運営していく者同志で、時間が経つにつれ、しだいに話が盛り上がり、話題はこれからの大迫力についてや昔の追大の姿、また現在の大迫力についての話という追大を愛する者同志ならではの会話となり、現役生は昔の

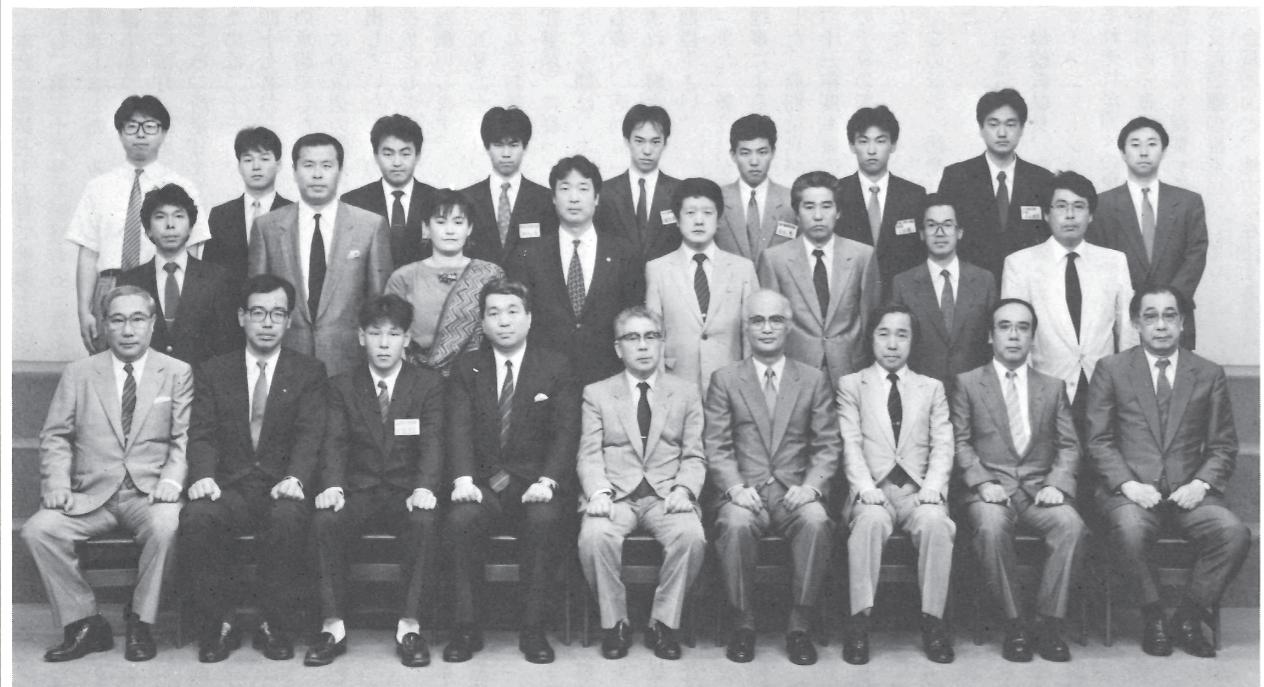


発行者
番567
茨木市西安威2-1-15
追手門学院大学校友会
会長 関 謙二
☎0726-43-5421 内線451
編集者
佐藤新二
© 1989

在校友会会員の皆さん、現在の追手門学院大学に接する機会は将軍山祭などまだあります。久振りになりました。母校の門をくぐって見ませんか。 ように思います。

在校友会会員の皆さん、現在の追手門学院大学に接する機会は将軍山祭などまだあります。久振りになりました。母校の門をくぐって見ませんか。 ように思います。

在校友会会員の皆さん、現在の追手門学院大学に接する機会は将軍山祭などまだあります。久振りになりました。母校の門をくぐって見ませんか。 ように思います。



本会新役員と学長はじめ大学当局の方々 学友会役員との三者懇親会

校友生の消息の把握に努めると同時に、与えられた責務を忠実に果たす所存でありますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、近況ですが、私はいま泉州高石市にある南海福祉専門学校といふところに勤めています。幸いなことに、曲がりなりにも大学の専攻分野の延長線上での仕事に就いています。そんな関係で、一部ではありますが、心理学科の卒業生とはおつきあいする機会が結構あり、忘年会などと称してよく飲んでおります。

ご近所においての折はぜひお声をかけて下さい。

住所変更のお知らせはハガキで

外に、方法はありません。
住所及び勤務先の住所に変更がありましたら、ハガキでお知らせ下さい。卒業年度・学部学科を忘れずに記入して下さい。できれば本会報送付の封筒に記されている「会員番号」をお書き下されば、さいわいです。
大阪以外の都市や地域での変更もお知らせ下さい。

忘れていませんか?
住所が変わってるのを
合区、政令指定都市化

合区、政令指定都市化による表示変更

新役員決まる

(平成元年四月～五年三月末まで)

理事数は増加

五月二十一日、母校において、役員候補者にお集まりいただき、平成元年から四年間、校友会活動に尽力下さる役員を互選しました。閔会長を再任したほか、副会長二名、常任理事八名、理事七名、そして評議員四名が決定しました。続いて開かれた理事会では、①三者（大学当局、在学生、本会役員）懇親会の開催②支部の新設を推進③卒業生に対する記念品——などのテーマについて協議しました。

追手門学院大学校友会会則抜粋

第4章 役員および役員会

第8条 本会に次の役員を置く。

1. 会長
 2. 副会長 若干名
 3. 常任理事会議長
 4. 常任理事 若干名
 5. 理事 若干名
 6. 評議員 若干名
 7. 監事 若干名

第9条 役員の選出および任務は次の通りとする。

1. 会長は理事会で選出され 会を代表する。
 2. 副会長は 会長が理事中より委嘱し 会長を補佐し会長が事故あるときはその代理をする。
 3. 常任理事会議長は 常任理事中より互選し 常任理事会・理事会を統轄しその決定事項を発動し 本会の会務一切に責任を持つ。
 4. 常任理事は 理事中より互選し理事会の決定事項を執行し また本会の事務を時担処理する。
 5. 理事は 評議員中より互選し本会の会務を決定する。
 6. 評議員は 正会員中各卒業年度・各学部より所定の選挙方法によって若干名を選出し会務の協議に当る。
 7. 監事は 正会員中より理事会が選出し 本会会の監査を行う。

第10条 役員の任期は4年とし 再任を防げない。

いし、第三十六号で候補者名一覧を発表しました。みなさんからのご異議もありませんでしたので、各候補者に四月、改めて受諾を問い合わせましたところ、所定日までに回答を下さったのは二十三名でした。推薦者数が四十七名おられましたが、ほぼ半数の承諾でした。

次の改選の際には、一層の推薦を出していただくのと、多数の方々が役員として協力していただけるよう

常任理事	宮本正仁	45文・英米
監事	岡田惇	45経・経済▽
鶴毅	小坂井俊夫	46
教男	川中土郎	49経・経営▽
経・経済	口村一郎（東京支部担当）	51文・心
蟻柴潤一（会計担当）	49文・社会▽	理▽佐藤新二
行	58文・東洋▽朝野浩	62経・経営
理事	鳥野博文	文・心理▽福井
郁子	吉田浩幸	50文・社会▽高井
教男	北井一史	56経・
経済	芳田茂樹	63文・院心理
評議員	徳田俊郎	51文・社会▽
丹（謝）	恵美	52経・経営▽服部隆
嘉一	51経・経済	司 55経・経営▽伊藤真一 57経・
顧問兼事務局長	佐藤良和	51院・
經營		

平成元年度 校友会消費収支予算書

自 平成元年4月1日

至 平成元年3月31日

(单位：円)

科 目	予 算 額
(収入の部)	
会 費	18,000,000
受 取 利 息	4,000,000
20周年記念事業	0
校友会員名簿関係	(0)
収 入 の 部 合 計	22,000,000
(支出の部)	
一 般 経 費	
人 件 費	1,000,000
会 報 印 刷 費	1,000,000
そ の 他 の 印 刷 費	1,000,000
通 信 費	2,500,000
交 通 費	100,000
消 耗 品 費	20,000
会 議 費	200,000
慶弔 費	50,000
新入会員登録・ 住所変更等名簿完備費	1,500,000
総 会 費	500,000
雜 費	50,000
卒 業 記 念 品 代	120,000
学 友 会 活 動 援 助 費	500,000
大 学 祭 援 助 費	100,000
大 学 祭 行 事 參 加 費	100,000
支 部 設 立 準 備 費	200,000
公 租 公 課	800,000
特 別 経 費	
將軍山会基金繰入	5,000,000
將軍山会基金II繰入	5,000,000
〔 予 備 費 〕	1,500,000
支 出 の 部 合 計	21,240,000
当 年 度 消 費 収 支 超 過 額	760,000
前 年 度 繰 越 消 費 収 支 超 過 額	12,542,0408
翌 年 度 繰 越 消 費 収 支 超 過 額	13,302,408

昭和63年度 校友会消費収支計算書

自 昭和63年4月1日

至 平成元年3月31日

(单位: 川)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
(収入の部)			
会 費	21,000,000	17,920,000	3,080,000
受 取 利 息	0	6,897,309	△6,897,309
20周年記念事業	0	63,000	△63,000
校友会員名簿関係	(0)	(63,000)	(△63,000)
収 入 の 部 合 計	21,000,000	24,880,309	△3,880,309
(支出の部)			
一 般 経 費			
人 件 費	800,000	782,400	17,600
会 報 印 刷 費	1,000,000	642,300	357,700
そ の 他 の 印 刷 費	1,000,000	849,180	150,820
通 信 費	3,500,000	1,482,592	2,017,408
交 通 費	150,000	47,250	102,750
消 耗 品 費	20,000	13,776	6,224
会 議 費	100,000	127,283	△27,283
慶弔 費	50,000	8,590	41,410
新入会員登録・ 住所変更等名簿完備費	2,500,000	248,784	2,251,216
総 会 費	500,000	0	500,000
雜 費	0	24,515	△24,515
卒 業 記 念 品 代	120,000	115,000	5,000
学友会活動援助費	500,000	500,000	0
大 学 祭 援 助 費	100,000	100,000	0
大 学 祭 行 事 参 加 費	100,000	0	100,000
支 部 設 立 準 備 費	200,000	0	200,000
特 別 経 費			
大学国際交流の為の寄付	0	5,000,000	△5,000,000
將軍山会基金繰入	0	7,263,041	△7,263,041
將軍山会基金II繰入	0	5,000,000	△5,000,000
〔予 備 費〕	1,500,000	0	1,500,000
支 出 の 部 合 計	12,140,000	22,204,711	△10,064,711
当年度消費収支超過額	8,860,000	2,675,598	6,184,402
前年度繰越消費収支超過額	433,507	9,866,810	△9,433,303
翌年度繰越消費収支超過額	9,293,507	12,542,408	△3,248,901

先般、所用があ

先般 所用があつて母校を訪ねて
みました。 「大きな正門」が建ったなア
前のスロープ周辺で工事をしていま
した。 それは路面にタイルを敷き詰
め、 階段幅を拡張するものでした。
その工事を見ていると、 ふと淋し
さを覚えたのです。 階段の中央に松
など植えられていましたが、 それは
パツサリ切られていたからです。 卒
業して数年経ち、 二十周年式典で訪
れた際に、 あの松よく茂ったものだ
――との印象を受けていただけに、
自然の景観を誇りにしていた母校か
ら緑が減ったのを見逃さずにはおれ
ませんでした。

「生命」を持ち、 母校の歴史とと
もに育ってきた樹木を惜し気もなく
切り、 流行のプレイランドみたいな
タイトルを敷くのはどうかと思います。
また、 クラブ棟の建設でも、 学生達
がユニークに彩ったクラブハウスを
取り壊していました。 確か宮本輝氏
の小説イメージを表現するのに、 あ
のクラブハウスは読売新聞が写真で
取り上げていたハズです。

それから卒業生一人ひとりが頭に焼
きついている姿を、 写真、 ビデオな
どの形ででも残してもらっておれば
幸なのです……。

私は母校の長期ビジョンは知りま
せん。 ですが、 変革にあたっては自
然、 歴史に配慮願いたい。 永遠に存
在する『母校』を誇りとしたいから。

校 友 会 貸 借 対 照 表

平成元年3月31日

(单位: 円)

借 方		貸 方	
資産の部		負債の部	
I. 流動資産	[171,079,683]	I. 流動負債	[158,537,275]
現金	(41,642,079)	前受金	(29,099,671)
普通預金	88,309	預り金	21,800,000
三和銀行茨木西支店	864,770	未払金	7,280,000
住友銀行茨木支店	859,932		19,671
定期預金	4,838		
三和銀行茨木西支店	21,000,000		
摺津信用金庫本店営業部	6,000,000		
有価証券	15,000,000	II. 特定引当金	(129,437,604)
日本興業銀行大阪支店	19,689,000	将軍山会基金	69,437,604
II. その他の固定資産	19,689,000	将軍山会基金II	60,000,000
投資等	(129,437,604)		
将軍山会基金積立		消費収支差額の部	[12,542,408]
普通預金			
住友信託銀行高槻支店	175,495	翌年度繰越消費収支超過額	(12,542,408)
日本興業銀行大阪支店	175,015		
有価証券	932		
日本興業銀行大阪支店	7,220,000		
金銭信託	7,220,000		
住友信託銀行高槻支店	52,041,657		
貸付信託	52,041,657		
東洋信託銀行茨木支店	10,000,000		
将軍山会基金II積立	10,000,000		
貸付信託	60,000,000		
東洋信託銀行茨木支店	60,000,000		
合計	171,079,683	合計	171,079,683

※預り金 56年度徴収57年度山桜会費

監查報告書

私たち監査役は追手門学院大学校友会の昭和63年4月1日から平成元年3月31日までの貸借対照表、消費収支計算書、資金収支計算書について監査した。

この監査にあたり私ども監査役は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠、通常実施すべき監査手続きを実施した。

監査の結果、貸借対照表、消費収支計算書、資金収支計算書は、校友会会則に従い、校友会の財産及び収支の状況を正しく示しているものと認める。

平成元年4月 日

追手門学院大学校友会

監事 宮 本 幸 治

監事 森 嘉一

この部分には会員の住所変更等が掲載されていました。
個人情報の観点からこの縮刷版には掲載しておりません。

会長をはじめとする諸先輩と共にや
ングパワーを発揮して頑張りたいと
思います。

▽今期の新役員も決まり、全員はつ
らつとして希望に満ちあふれています。
新役員の顔ぶれもニューフェイ
スが増え、この新役員達の活躍等も
会報でお伝えしていきたいと思いま
すので、あたたかい目で見守って下
さい。

▽現在、大学正面、スロープを上り
きった所の階段の改築工事が行なわ
れています。昨年の正門に引き続
き、どんどん母校は変わってきてい
ます。十一月には例年通り将軍山祭
も行なわれますので、是非のぞいて
みて下さい、恐らく驚かれることで
しょう。

▽はじめての編集作業ということです
佐藤両先輩に大変ご迷惑をおかけし
ました。この場を借りてあやまりま
す。「ごめんなさい」

▽閑話休題 私は校友会の役員になっ
て今年で二回目になるのですが、そ
の間にたくさんのお先輩方と出会うこ
とが出来ました。そこで思うのですが、
が、どんなに歳が離れていても、同
じ大学を卒業したということはすご
い紳だと思うのです。私はまだま
だ顔も名前も知らない先輩・後輩が
たくさんいます。この会報を読んで
いる人もそうだと思います。私はそ
ういう知らない先輩・後輩との橋渡
しにこの校友会会報がなければと思
い、そういう会報にしてみたいと思
います。

(編)集(後)記